

The Kamenori Community かめのりコミュニティ

公益財団法人 かめのり財団は、日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を通じて、
未来にわたって各国との友好関係と相互理解を促進するとともに、
その架け橋となるグローバル・リーダーの育成を目的に事業を行っています。

K 公益財団法人
かめのり財団
Kamenori The Kamenori Foundation

2012年7月 No.10

今号の内容

- ◇高校生交換留学プログラム
受入生来日
- ◇かめのり大学院留学 アジア奨学生
新奨学生決定
- ◇第6回かめのり賞
募集のご案内
- ◇東北研修
奨学生 宮城県を訪問
- ◇かめのりコミュニティの仲間からのお便り

奨学生東北研修 宮城県南三陸町防災対策庁舎を訪問



高校生交換留学プログラム

受入生来日

本年3月下旬、アジア9ヵ国・地域から14名の受入生が来日しました。今年は桜の見ごろが平年より遅れた地域が多く、毎年、受入生が楽しみにしている満開の桜をホストファミリーと鑑賞し、日本での異文化体験をスタートさせました。現在は、高校に通学しながら友達の輪を広げ、部活動や日本語の勉強に力を入れ、それぞれの目標に向けて励んでいます。また、5月には東北研修に参加し、派遣生や大学院奨学生と宮城県を訪ね、現地の視察を行いました。その様子を次ページで紹介します。

受入生のことば

「インドネシアとは異なる日本の習慣、特に“時間を厳守すること”を学び、身につけたい」
「将来は、日本語を使う通訳者になり、インドと日本のよりよい関係を築くことに貢献したい」
「芸術に興味があり、歌舞伎や文楽の鑑賞そして三味線など伝統的な楽器を弾いてみたい」
「留学を通じて洗練された考え方を身につけ、学問だけでなく1人の人間として知識を広げたい」
「日本人や他の国からの友人をたくさん作り、長く交流を続け、韓国と世界を結ぶような人になりたい」
「漫画やアニメが大好き。日本の食べ物やデザートはとてもおいしいと思う」



かめのりコミュニティ

かめのり大学院留学 アジア奨学生

新奨学生決定 2012年度採用の新奨学生3名が決定し、4月7日(土)に授与式と懇親会を行いました。昨年度採用奨学生やOB・OG、評議員・理事が出席し、奨学生からは研究内容と今後の目標の発表、そしてOB・OGからは後輩へ激励の言葉が贈られました。3名の新奨学生をメッセージとともにご紹介します。



Htet Htet Nu Htay
(ミャンマー)
東京外国語大学大学院
総合国際学研究科 (博士後期)

私の研究テーマは『ミャンマーの民主化プロセスにおける「批評空間」の役割』(仮)と設定しています。研究内容は、政治と民衆を繋ぐ役割を果たしているメディアがミャンマーにおいてどのように変化し、その変化がミャンマーの民主化プロセスにどのような影響をもたらしたのかを調査しています。さらに、今後は社会学、人類学の側面から論じることを試みています。このような研究をしている私が、かめのり財団の奨学生に選ばれました。この奨学金は私個人に与えられるものではなく、私を通してミャンマー社会に対し日本の方々から「応援したい」という気持ちを贈っていただいていると思っています。そのような思いに応えることができるよう将来的にはミャンマー社会で啓蒙活動を行っていきたくと考えています。



張 婷婷 (中国)
Zhang, Ting Ting
東北大学大学院
経済学研究科 (博士後期)

私は「近世日本における人口移動の実証研究」を研究課題として、近世日本における労働人口移動・村落共同体・地域経済について研究を進めています。史料を用い、歴史人口学的定量分析方法で、近世日本における人口移動の実態と移動人口の背後に存在する村落社会の「全体像」を明らかにし、さらなる調査によって人口移動先の地域社会経済の構造まで明らかにしたいと考えます。私は人口と地域経済とのつながりに興味を持ち、将来、中日比較研究の領域、特に人口と地域経済についての研究領域へ貢献できる専門研究者になることを目指しています。この度、「かめのり財団」のサポートをいただき、研究に打ち込めるようになり、これからは、「かめのり奨学生」の誇りを持ちつつ、研究に取り組み、中日両国友好交流のかけ橋になれるように努力し続けます。



授与式にて



金 智愛 (韓国)
Kim, Jiae
立命館大学大学院
社会学研究科 (博士前期)

東日本大震災後の日本で大学院に進学できたことは、私にとって大きな意味があります。日本での学びを通じてかめのり財団奨学生として成長し、将来は日韓間の文化的な相互交流に貢献していきたいです。研究テーマは、「日韓における外国人の犯罪報道の比較調査」です。グローバル社会において各国のマスメディアが報じる外国や外国人のイメージは、外国人の受け入れられ方に影響します。マスコミが日々報じる内容の分析によって人々の認識にメディアがどのような影響を与えるかという報道傾向を示したいと思います。日本と韓国を中心としたアジア社会において、メディアを通じた外国イメージの形成を知ること、グローバル人材になるための第一歩です。さらに、アジア共同体の一員としてステレオタイプを離れた人的交流をし、偏見のない社会の形成に少しでも寄与したいと考えます。

第6回かめのり賞

募集のご案内

かめのり賞は、交換留学、文化・スポーツの青少年交流、語学教育など日本とアジア・オセアニアの相互理解の増進に草の根で貢献している方々の活動を顕彰し、支援します。表彰者には、本賞の記念の楯と副賞として活動奨励金を贈呈します。

対象は、5年以上の活動歴を持ち、次のような活動に携わるNPO(非営利団体)、ボランティアグループ、個人となります。

- ① 国際交流・協力にかかわる活動
- ② 多文化共生にかかわる活動
- ③ 国際貢献に携わる人材を育成する活動



第5回かめのり賞 表彰式

また、①～③のうち、特に2011年3月の震災の被災地域やその影響を受けた地域の方々およびそれらの地域を応援する活動からの積極的なご応募をお待ちしています。

詳しい募集要項は、ホームページをご覧ください。どうか事務局までお問い合わせください。応募の締め切りは、9月14日(金)です。



第6回かめのり賞募集要項 ▶ <http://www.kamenori.jp/kamenorishou.html>
Tel : 03-3234-1694(9:30-17:30) E-mail : info@kamenori.jp



東北研修

奨学生 宮城県を訪問

2012年5月11日(金)~12日(土)の1泊2日で、かめのり財団奨学生が宮城県の被災地域を訪ねる東北研修を実施しました。この研修は、津波被害に遭われた方々や現地でボランティア活動をされている方々の体験談を聞き、被災地域の現在の状況を実際に自分の目で見て、肌で感じ、自分たちに何が出来るかを考える目的で行われました。

来日して約2か月が経つアジアからの高校生受入生12名、この夏留学をスタートさせる高校生派遣生3名、大学院奨学生4名の計19名が参加しました。震災から1年2か月を経たこの時期に日本に留学している、或いはこれから海外に留学するという状況にある奨学生一人ひとりが、その意味を感じてほしいという願いもありました。

現地では、宮城復興支援センターの船田究氏、震災当時南三陸町立歌津(うたつ)中学校校長であった阿部友昭氏が全面的にご協力くださり、奨学生たちは震災当時の状況や被災地の現状について認識しただけでなく、防災について学び、今後の復旧、復興について地域や国を超えてできることを考えた内容の濃い研修となりました。



上)高台にある志津川中学校から状況を見る
中)津波が押し寄せた海拔18メートルにある歌津駅

参加した奨学生 懇親会にて

初日： 南三陸海岸、志津川中学、歌津駅見学

仙台空港でバスに乗り込んだ時は、落ち着かない様子を見せていた奨学生たちでしたが、車中で船田氏と阿部氏からのお話を伺い、震災直後に津波が襲ってくる様子が収められたビデオを見るうちに真剣な表情へと変わっていきました。南三陸町にバスが着き、小雨の中、降り立ったところには鉄骨だけが残された防災対策庁舎がありました。実際に見る被災地は想像以上のものだったと多くの奨学生がレポートの中で書いています。

レポートより

「津波のせいでぼろぼろになった防災対策庁舎の前に立っていた時、外側の階段で、屋上で避難していた方々の姿が見え、防災無線で町民に避難を呼びかけ続け、津波の犠牲になった町職員の女性の声が聞こえるように感じられました。〈中略〉震災および震災による津波に直面していた時の非力を感じると同時に、これからできること、特に外国人留学生としての自分ができること、やるべきことについて深く考えさせられました。」
(大学院奨学生 Zhang, Ting Ting)

レポートより

「ビデオで津波の映像を見て、ほんの十数分間で町中の建物が全滅してしまい、本当にびっくりした。この町は私にとって、別に特別な感情を持っていないですけど、それでも私はとてもショックを受けた。じゃあ、その町で数十年間住んでいた住民たちの気持ちは言わなくてもわかるでしょう！自分の町を津波で流されるということが、目の前で起こるなんて、どれほどの喪失感を感じたのだろうか。〈中略〉「仙台」の意味は「Send Ai」、愛を送るという意味です。今の私はまだできることがあんまりないですけど、だから、せめてこの愛だけでも、被災地の人々に送りたいと思います。」
(高校生受入生 Chen, Han Qing)

2日目： 講義とディスカッション、荒浜・関上地区見学

午前中の講義では、七ヶ浜国際村国際交流員のマーティ・ミックエルリース (Marti McElreath) 氏から震災当時の様子とその後の活動について、阿部氏から南三陸町の被災状況と中学でのその後の取り組みについて、船田氏から避難所での子供たちへの心のケアやボランティアを続ける意味などについて伺いました。また、その他に3人の外国人の方々がそれぞれの震災とボランティア体験を話してくださいました。その後、3つのグループに分かれて、「この研修で感じたこと、学んだこと」「私たちに何が出来るか」というテーマでディスカッションを行いました。「募金をする」「帰ったら家族や友人に伝える」「被災した方々のことを忘れない」「もっと多くの人に被災地に来てもらう」「まず身近に困っている人がいたら助ける」などの意見が出た有意義なディスカッションとなりました。午後は、津波の被害を受けた仙台市若林区荒浜と名取市関上(ゆりあげ)地区を見学して、2日間の研修を終えました。



左)Marti氏による講義 右)ディスカッション
下)荒浜を訪ねる

レポートより

「被災の様子のビデオではとても心が苦しくなり、涙が止まりませんでした。〈中略〉この体験を9月からのインドネシア留学で、私は日本人として沢山のの人に伝えていかなければならないと思います。」
(高校生派遣生 片岡理沙)

かめのりコミュニティの仲間からのお便り

アジアで貴重な異文化体験をしたかめのりコミュニティの仲間たちは今、それぞれの夢に向け歩んでいます。

2010年
第2回中学生交流プログラム(韓国)参加

酒井 美晴

学校で、今年度、生徒会長を務めることになり、委員会活性化のために頑張っています。プログラムに参加し、ますます韓国への関心が深まり、今は、毎日韓国ドラマを見ています。ホームステイ先の方とも手紙やプレゼントのやりとりを続け、一緒に派遣された仲間ともよく会い、交流の輪が広がりました。参加できたことを誇りに思っています。

湯沢 直子

韓国へのプログラムに参加して、様々な人との出会いに臆せず、自分の限界を決めず、何事にも挑戦しようという考えが芽生えました。韓国の方の優しさ、交流でわかる韓国の文化、歴史的建造物の美しさ、多くの人との出会いでわかった考え方の広さ、一歩踏み出して見えた世界の広さ。学んだ多くのことは、私を感化させ、未知の世界や文化がいかに素晴らしいものか教えてくれました。これからもっと広い知識や考え方を手に入れて、これまでお世話になった方々に恩返しをしたいです。

吉川 綾美

学校では、部活動や受験勉強に力を入れています。両立は難しいですが、「人生で一番頑張った1年」と言えるように全力で取り組みたいです。私は、韓国へ行ったことで、異国の人と交流し、お互いを認めることの大切さ、理解し合い仲良くなる楽しさを学びました。多くの人と同じような体験をすれば世界から差別がなくなると考え、将来、そのようなお手伝いができればと思い、キャビン・アテンダントになる夢ができました。

2011年
第3回中学生交流プログラム(マレーシア)参加

柏 可奈子

将来は、海外に住むかあるいは頻繁に海外を訪れる仕事に就きたいと思います。前回マレーシアに行って、自分の語学力の弱さを改めて感じたので、これから高校・大学で、英語圏への短期留学など、機会があれば積極的に参加し、しっかり海外でやっていけるだけの語学力を身につけていきたいです。

田中 恵一

学校では、部活動と英会話に力をいれています。マレーシアでは、笑顔の大切さを学びました。僕が緊張しながらマレーシアに到着した時、現地の人々が笑顔で迎えてくれ、緊張がほぐれました。マレーシアで学んだ笑顔がこれからも大切にしていきたいです。

2011年 中国へ短期留学

淵上 碧

この夏、アメリカに長期留学することが決まり、留学中はたくさん学ぶことが多いと思うので、日本でできることをしっかりと、出発したいと思います。中国へ行った時以上に、家族をはじめ周囲の方々に支えてもらい、感謝の気持ちを忘れずに留学にのぞみたいですね。中国という一つの国へ行ったことで、他の国からの友だちもでき素晴らしいプログラムに参加できました。留学は旅行とは全く異なります。これから留学する人は、しっかりと自分の考えや日本人としてのプライドを持ち、留学する国以外のことにも興味を持つことが大切だと思います。

高校生交換留学プログラム(長期)参加

光田 結(2008年 中国)

中国に留学して模倣品に興味を持ち、同志社大学法学部に進学し知的財産法について学んでいます。将来は中国とのビジネスにおいて発生する知財紛争で活躍できる弁理士を目指しています。交換留学は可能性を広めてくれます。進路選択では将来何がしたいか具体的にイメージができ、入学後人より何歩も先に行けます。何よりも留学で培ったどんな困難も乗り越えられるバイタリティとチャレンジ精神が今の生活に生きています。

守谷 直子(2008年 マレーシア)

現在は、大学で、両親と一緒に暮らすことができない施設で生活する子供たちの発達と心のケアに興味を持ち、「発達臨床心理学」のゼミに所属しています。将来はマレーシアと日本の架け橋になるような仕事をし、両国の人々を繋げるような人間になりたいです。人との出会いが本当に素晴らしいことを学んだ留学は私の大切な宝物です。15歳で留学を決めたあの時の自分の選択は間違っていなかったと確信しています。

賀来 琳(2010年 中国)

将来、映画製作に携わりたく専門学校で4月から学んでいます。刺激的な仲間、先生方に恵まれ、これから学ぶべきこと、すべきことがたくさんあります。中国へ留学して半年経った頃、母から「留学して変わった」と言われました。私が実感している変化は、目標ができて活動的になったことです。自分自身が変わった訳ではないけれど行動が変わった今、自分を変える機会をいただいたと感じます。今後の私の活動がこれまでお世話になった人々への恩返しになればいいと思います。

今後の予定

- 7月 【高校生短期】第5期生中国へ出発
- 8月 【高校生短期】第5期生韓国へ出発
- 9月 大学院奨学生 研修交流会
- 10月 第4回中学生交流プログラム(台湾)実施
- 10月20日 ヤング日本語人フォーラム(仮称)公開セミナー

≪ 編集後記 ≫

東北研修では宮城県の方々に大変お世話になりました。奨学生の報告レポートに、迎えてくださった方の温かな笑顔がとても印象的だったという感想がありました。笑顔の向こうには想像をはるかに超える辛い悲しい体験をされていることを常に心に留め、現地の方々の心に少しでも寄り添う気持ちを忘れずに、何ができるのかをこれからも考えていきたいと思っています。(菊地)

発行人 / 西田 浩子 編集 / 菊地 佐智子
デザイン / イワブチサトシ (BUTI design) 印刷 / 佐伯印刷株式会社



日本とアジア・オセアニアの若い世代の交流を支援します！

公益財団法人 **かめのり財団** The Kamenori Foundation

〒102-0083 東京都千代田区麹町 5-5 共立麹町ビル 103

TEL : 03-3234-1694 FAX : 03-3234-1603

E-mail : info@kamenori.jp URL : http://www.kamenori.jp/